

新中央市民病院の主な特徴の紹介 — 平成 23 年 7 月移転・開院予定

新中央市民病院（以下、「新病院」）は、平成 23 年 7 月に、現病院の約 1.3km 南（神戸市中央区港島南町 2 丁目）に移転・開院を予定しています。

新病院は、これまでと同様、24 時間 365 日、市民の皆さんの生命と健康を守ることを使命と考え、地域の医療機関の皆様との連携、役割分担のもと、救急医療・高度医療・急性期医療を重点に、「患者の視点に立った、質の高い医療の提供」に努めてまいります。

今回は、新病院の新たな機能や現病院からの改善点などについて、その一端をご紹介します。

■救急医療体制を強化

新病院では、救急患者の受入体制を強化するため、救命救急センターの病床（E-ICU、CCU を含む）を現在の 30 床から 50 床に増やすとともに、G-ICU を 6 床から 8 床に、NICU を 8 床から 9 床にそれぞれ増やすなど集中治療部門の機能を強化します。

また、HCU（28 床）等の後方病床を設置するとともに、許可病床数に計上されない経過観察ベッド（10 床）を新設します。さらに、手術室についても現在の 16 室から 18 室に増やし、このうち、救急専用の手術室を 1 室確保します。

現在は床荷重など構造上の制約から検査機器等が院内に分散しており、患者さんの移動に時間がかかるなどの課題があることから、新病院では 1 階の救急部門に隣接して、MRI や血管造影など映像医学の検査部門を配置するなど、「検査・診断・治療」がより迅速に行えるようにするとともに、救急部門と 4 階の手術部門、集中治療部門及び屋上のヘリポートとを直結する患者搬送エレベーターコアを設けるなど院内動線を改善することで、救急患者の受入体制を強化していきます。



手術室イメージ (モデルルーム)

■患者さんにやさしい医療の提供

新病院では、内視鏡やカテーテル手術など身体への負担が少なく、日帰りから 2 泊 3 日以内の入院期間の手術を専門に扱う「デイサージャリーセンター」を手術部門に新設し、これまで以上に患者さんの治療期間の短縮に取り組みます。これにより、長期入院が難しい事情をお持ちの患者さんでも安心して治療が受けられるようにするとともに、身体的負担に加え、入院費などの経済的負担の軽減をはかります。

また、患者さんやご家族に対し、ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）を活用して検査結果や治療内容などの情報をより正確・迅速に、わかりやすくお伝えすることができるよう、新たに電子カルテをはじめとする「医療情報システム」を導入し、インフォームド・コンセントへの取り組みをより強化していきます。



診察室イメージ (モデルルーム)

■患者さんやご家族の視点に立った療養環境

新病院の病室は、ゆとりのある広さにし、個室感覚の多床室を設置するとともに、現病院よりも個室を多く設けるなど、患者さんやご家族の療養環境やプライバシー等に配慮します。

各病床には「ベッドサイド端末」を設置し、テレビやインターネットのほか、選択食の献立の選択や検査の情報、院内利便施設などの各種情報が得られる機能も備えます。



病棟 4 床室イメージ

さらに、患者さんとご家族のみなさんが気軽に食事や会話などができるよう、各病棟に「デイルーム」を確保したり、外来診療部門と生理検査部門を2階の1フロアに集約し、患者さんの院内での上下移動をできるだけ少なくするなど、患者さんやご家族の視点に立った癒しとやすらぎの療養環境を整えます。

■待ち時間をより短く快適に

外来の待合いでは、診察の順番が近づくと文字や音声などで知らせる「院内呼び出し携帯端末」を導入するほか、図書・パソコンなどを備えた「市民健康ライブラリー」を設け、待ち時間を快適に過ごせるようにします。また、会計の自動精算機を導入するなど、待ち時間の短縮もめざします。



院内呼び出し携帯端末

市民健康ライブラリー

■新たに導入する主な医療機器

新病院では、最新鋭の放射線検査・治療機器などを新たに導入し、患者さんにやさしく高度な医療の提供を目指します。



PET-CT（陽電子放射断層撮影装置）

〔導入機種〕GEヘルスケア・ジャパン(株) Discovery PET/CT 600 Motion
現在、PET検査については、先端医療センターなど他院の装置を利用していますが、患者さんの検査待ちが生じている状況です。
今後さらなる増加が見込まれるがん患者に対して、手術、放射線治療および化学療法を組み合わせ、患者に最適な治療を提供するために、新病院ではPET検査が可能となるよう新たにPET-CTを導入します。



IMRT-リニアック（強度変調放射線治療装置）

〔導入機種〕(株)バリアンメディカルシステムズ CLINAC iX
今回、新病院に導入する機種は、高性能型と汎用型の各1台です。
高性能型は、ピンポイントな治療、IMRT（強度変調放射線治療）が可能で正常組織に対する影響が少なく、副作用の少ない治療が可能となり、主に頭頸部の局所治療を行います。
また、汎用型は、主に体幹部のリンパ節を含めた腫瘍の治療を行います。
隣接する先端医療センターの治療装置（2台）と相互に連携しながら、患者さんの疾患に最も適した機器による治療を提供します。



ハイブリッド手術装置

〔導入機種〕(株)フィリップスエレクトロニクスジャパン Allura Xper FD20
マッケ・ジャパン(株) マグナスコラム
手術室内に高解像度のX線透視装置（血管造影装置）を設置し、通常手術とカテーテル処置を組み合わせ実施します。高齢化が進む中、冠動脈疾患を伴う大動脈瘤や心臓弁膜症等の増加が見込まれ、本装置を使用したステント治療を行うことで、患者の身体的負担の軽減（低侵襲治療）を図ることができます。
また、脳神経外科の領域においても、開頭術の際に画像撮影による確認が行えるなど治療成績の向上、安全性の向上に寄与します。



（お問い合わせ先） 地方独立行政法人 神戸市民病院機構 法人本部 新中央市民病院整備室
TEL：078-940-0160 FAX：078-306-2870 http://www.kcho.jp/new_hospital/
〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目1番地 神戸商工会議所会館 7階